

中学1年2組 国語科学習指導案

指導者 林 原 公 子

読書紹介記事の推敲を手引きをもとに小グループで行うような学び合いをさせたことは、言葉へのこだわりやよりふさわしい表現に至る思考力・判断力を引き出すことに有効であったか。

1 単 元 名 読書案内「本の世界を広げよう」

2 授業の構想

(1) 読書体験の傾向を探ると、子どもたちの読む本（マンガ、雑誌を除く）の多くは推理小説やケータイ小説、映画化またはゲーム化されたものが主になっている。

平易な文章の作品には興味を示すが、工夫された構成や巧みな表現を持つ文章にはあまり親しみを感じていないのが実状である。生徒一人一人の読書生活、趣向、関心から課題を設定することで、共通した読書経験を語り合い、読書を通じての交流へとつなげることができるであろう。

生徒は読書の時間を設けると、積極的に読書活動に取り組む。自分なりのペースで読みすすめ、読書を楽しもうとしている。しかし、テレビドラマ、映画、「ケータイ」とメディア化された作品を手にする傾向は強く、発展的に自分の読書分野を広げようと活動したり、自主的に自分たちの課題を持って読書に取り組もうとするには至っていない。また、中学生としてどんな読書をしたら良いのか分からず、これまでの読書の傾向を抜け出せずにいる生徒も多いようだ。そのため、教師の提供する本に関する情報には興味を示し、他の者がどのような読書に取り組んでいるのかについても知ろうとする意欲がある。

自らの考えや思いを伝え合うことの意義を意識できる生徒も多いが、実際に表現する場には慣れていない。

(2) 今後の読書生活や自らの学びの姿勢を向上させていくために、本の世界の広がりを知ることや人とかかわることで自らの思考を広げ、深めていく学習が必要である。

読書習慣を身につけるためには、まず読書量を確保しなければならない。そこで、フィンランドの国語教育メソッドを取り入れた読書記録をつけている。読んだ本の表紙画像を貼り付け、一言感想を書き留めるという方式である。本を読むたびに、表紙画像を貼る、読書記録が増えていくという生徒たちにとって楽しい作業が読書量の確保につながっていると考える。また、その読書のきっかけとなる「読書案内」を生徒たちが作成することで、本の中にある世界を紹介し合える場となり、読書への関心を高めることができるであろう。心にとまる表現や気に入った表現を使い、工夫して自分の表現として取り込むきっかけとなることも期待できる。

(3) これまでの読書分野に通じる教材の学習の際に、読書へのアニメーション（読書内容によるクイズや対話ゲームなどの作戦）の手法を取り入れた学習活動をいくつか行ってきた。本をじっと黙読し、読み浸る時間とは対比的に、本の内容を他とかかわることで楽しみ、本の世界に親しみをもち試みである。本単元でも、本の内容、文章表現について語ることで、お互いを知り、交流を通してより深く広がりのある読書活動へと発展させたい。また、小集団（3または4人のグループ）で情報交換し、お互いアイデアを出し合って、より良いものを創ろうとする話し合いの場を持つことができるよう工夫し、自身の読書を振り返ることや、より人を惹きつける情報とその提供方法を探り、相手意識を持たせた表現の充実にもつなげたい。読書に関する共通の話題でかかわりを持つことで、本の世界を広げ、読書生活を発展させる糸口としたい。

●本校国語科の読書に関わる指導計画

学年	単元名	指導目標	読書テーマ，分野など
1年	本の出会い方 ・深め方	○読書体験を発表し合って，読書に対する興味，関心，意欲を向上させる。(読書の楽しさ，きっかけ) ○調べたいことが記されている本を探し出す技術を磨かせる。	・想像 ・冒険 ・異文化 ・自然 ・生活の中で ・古典 (図や表の見方)
2年	文学の味わい 人間の真実	○文学の多様な表現を読み味わわせる。 ○表現されたことを手がかりに作品中の心情や思想を読みとらせる。(違いの発見)	・人間 ・真実 ・愛 ・ものの見方，考え方 ・自分を見つめる
3年	文学との出会い 人間のあり方	○作者の投げかける問題をとらえて読ませる。 ○自分にあった追究方法を選び，主体的に読み深めていくことができるようにする。(批評・比較)	・探求する心 ・平和 ・現代 ・世界 ・希望 ・生き方

3 展開計画 (全6時間 本時4/6)

次	主な学習活動・内容	時	具体的な学習活動	国語科における思考力・判断力・表現力の観点
1	○読書記録をまとめる	1 2	・読書をする。 ・読書記録をとる。 ・読書の対象 本の分野 分類をする。	○読書生活に生かせる記録をとっている。 ○本の中の表現を適切に記録している。
2	○本の紹介文を書く	3 ④	・様々な読書案内を読む。 ・紹介記事にする本をグループで推薦し合い，一冊を選ぶ。 →役割分担 執筆者・・・紹介文を書く。 編集者・・・推薦する本を読む ・紹介すべき場面を決める。 ④ 紹介文をグループで推敲し，記事を完成させる。	○本の世界を効果的に表現しようとしている。 ○文中の表現にこだわりを持っている。 ○相手の思考を探り，自分の思考も取り入れて，伝えている。
3	○読書案内 パンフレットづくり	5 6	・記事のレイアウトを決める。 ・記事を持ち寄り，クラスで編集会議 「1年2組が読む11冊」 →「附属中1年生の40冊」	○得た情報をもとに考えをまとめている。

4 本時の学習

(1)ねらい

- 本の紹介記事を作成する活動を通して、本への思いや表現へのこだわりを持つ。
- 他の見方、考え方や本への思いを自分の思考も取り入れてまとめていくことができる。

(2)展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価
1. 本時の学習を確認する。	
本の紹介記事を推敲し、完成させよう。	
2. グループで紹介すべき場面の朗読を聞き、取り上げた理由を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「本からのメッセージ」として、紹介する本のテーマを象徴する場面となっているかを確認する。
<p style="text-align: center;">—— 学級全体の学び合い ——</p> 3. 推敲の仕方について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習のてびき」を盛り込んだワークシートにより、推敲や話し合いの手順を確認する。 ・モデルとなる紹介記事を準備し、全体で推敲の手順や観点が確認できるようにする。
4. 執筆者の準備した紹介文を読み合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに配布した紹介文のコピーを読み、話し合うべき箇所に線を引くよう指示する。
5. 推敲の話し合いを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3人または4人グループで行う。 ○ 紹介すべき場面や内容の特徴の確認。 ○ 準備された紹介文の改善点について述べる。 誤表記や誤用語句の訂正 紹介すべき場面について 読み手に伝わる文章表現について など </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3の学習を生かした推敲が行えるよう促す。 —— 評価の観点（思考力・判断力・表現力 —— ・ 文の良いところと悪いところをあげて、推敲すべき点を説明し、話し合いを充実させている。 ・ 読み手の立場で文を改善している。 <p style="text-align: right;">【評価方法 推敲ワークシート、観察、紹介記事】</p>
6. ふりかえりをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の編集会議につなげるよう、作成した紹介記事と紹介場面とのつながりを確認することを指示する。